



江戸時代に、長良川で捕れた鮎で作った鮎鮎を江戸に献上するために運んでいた街道が笠松町内を縦走しています。その街道を当時の様子を再現しながら歩く鮎鮎街道ウォークが毎年行われています。

鮎鮎街道ウォークを支えているのは、町文化協会「鮎鮎街道」プロジェクト2016の実行委員の皆さんです。高橋 恒美委員長は「実行委員は、イベントを通して笠松の歴史を実感し、祖先の屈強さや苦勞を感じ取り、町に誇りを持ってほしいという願いを持って一丸となっています。」と紹介してくださいました。

実行委員の皆さんは、人足役の小・中学生の草鞋や足袋から衣装や笠まで、一人一人の身丈に合った物を用意したり、参加者に鮎雑炊や鮎鮎を試食してもらえるように準備したりと、献身的に行動しています。

また、子どもたちに笠松町の歴史や行事に対して知識や興味を持ってもらいたいとの願いから、鮎鮎街道の授業を行い、参加する小・中学生の有志を募っています。

【日 時】9月22日(木・祝) 午後1時45分集合 (小雨決行)

【出発場所】福祉会館前

【行 程】午後2時過ぎに町福祉会館出発→午後2時30分頃高嶋家前での宿次セレモニー→午後3時30分頃笠松みなと公園到着

※終着のみなと公園では、「アユ雑炊(200食限定)」や「特製鮎鮎(数量限定)」の振る舞いを無料で行います。

【参加料】無料

【問 合 先】町文化協会「鮎鮎街道プロジェクト」
高橋 恒美 ☎090-8952-1418

かきまつの民話「昔むかし」

うどんの日 ②

「ここらはドチがなあ……。」「まんた、水が冷てえでなあ……。」「うどんの日を知らなんだのやろうか……。」「去年もちょうど今ごろやつたになあ。」

「やっぱ、たたりやろか……。」「大人たちの話声は聞えたが、弥一にはそのことがよくわからなかった。」

人垣の間から、おそろおそろの輪の中をのぞいてみた。おしろがかけてあったが、まっ白いロウ細工のような二本の足がはみ出ていた。足の裏も、つめのあたりもみんな白う見えた。



話のあんばいから、となり村の子どものらしい。そばに母親らしい女が涙をながしながらしやがんでいた。巡査の声に少し顔をあげたが、涙でその顔はクシヤクシヤに見えた。

「むちやをするでいかんわ。こんな深いところではドチにひかれるのはあたりまえや。どこの子かしらんが、かわいいそんなことをしたなあ……。」「腰のまがったおばあさんが、つぶやきながら輪からはなれていった。」

弥一は見ているうちに恐ろしくなつて、家まで走って帰った。(つづく)